

令和8年度 北海道釧路江南高等学校の教育

教育の目的

- 【教育基本法】
- ① 人格の完成
 - ② 平和的社会的形成者の育成

校訓 …目指す生徒像

- 叡 智 学びで自立できる生徒
 希 望 夢を追求する生徒
 慈 愛 思いやりのある生徒

学校教育目標

- 1 真理の探究に心がけ、豊かな感性と高い教養、冷静な判断力を持った人となろう。「思考力」
- 2 高い理想を抱き、強固な意志を持ち、物事を科学的に処理し、夢や希望の実現を目指して実践する人となろう。「自己肯定力」「行動力」
- 3 豊かな情操を養い、社会の健全な発展に貢献できる心身ともに健康な人となろう。「想像力」「発信力」

◇スクールミッション (釧路江南高校の役割)

- 1 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、個々の進路実現に向けて必要な能力や態度を身に付けた生徒の育成
- 2 伝統・文化を尊重しつつ、グローバルな視点や国際感覚をもって地域の課題解決を図ろうとする生徒の育成
- 3 学習指導や特別活動を通して主体的に物事を考え、解決する能力と、将来、ふるさとを支える人材となるための資質・能力を持った生徒の育成 (育てたい資質・能力を「江南力」と呼び、具体的に次の5つとする。想像力、思考力、行動力、発信力、自己肯定力)

◇スクールポリシー (目標達成に向けての方針)

- 1 資質・能力について →江南力を育成する
 - (1) 各教科での「深い学び」の追究と「思考力」「判断力」「表現力」の育成
 - (2) 教科と「総合的な探究の時間」を両輪とした「知」の統合と「発信力」の育成
 - (3) 特別活動等による「行動力」「自己肯定力」の育成
- 2 教育課程編成及び実施について
→進学重視型単位制を活用し、個に応じた質の高い学習指導を実践する
 - (1) 多様なニーズに応える選択科目の設置
 - (2) 観点別評価の効果的活用と充実
 - (3) 教科横断的な学びを意識した学習活動の充実
 - (4) 習熟度別授業・少人数授業の実施
 - (5) 「社会に開かれた教育課程」を意識した課題の発見・追究
 - (6) 地域及び大学など専門機関との連携
- 3 入学者の受け入れについて→以下のような生徒を希望する
 - (1) 主体的な学びを目指し、進路目標達成の強い意志を持つ生徒
 - (2) 他者への思いやりとリーダーシップを備える生徒
 - (3) スポーツや芸術に高い関心・意欲を持ち、学習と両立できる生徒
 - (4) 英語学習に高い関心・意欲を持つ生徒

◇令和8年度の重点目標

教育活動のすべてを通じて生徒の江南力を育成する。

◎各分掌の重点目標 (スクールミッションの遂行を目指して)

総務部

- 1) 年次・分掌及び委員会等との連絡調整を図り、校務運営の効率化に努める。
- 2) 防災活動を通じて、生徒の主体的な防災・減災意識と行動力を育成するとともに施設設備の保全・管理に努める。
- 3) PTA活動の円滑化に努める。
- 4) 適切な情報化 (Web ページ、あんしんメール、情報機器業務) により、校務の効率化や広報活動の充実を図る。

教務部

- 1) 生徒や地域の事態に応じて、単位制の特色を生かした魅力なる学校づくりを進めるために、教育課程を効果的に実施・運用する。
- 2) 日々の「指導と評価」及び校内外での研修成果の活用により、授業改善を推進する。また、学習指導のより一層の充実により、学びを人生や社会に活かそうとする態度を育成する。
- 3) 「総合的な探究の時間」において、1・2年次では「探究」を理解・機能させ、3年次では効果的に運用する。
- 4) 令和9年度からの4間口体制を踏まえ、生徒のニーズや教員数のバランスを踏まえた実効的な科目選択群と教育課程を整備する。

生徒指導部

- 1) 基本的生活習慣や規律の意義を理解させ、自己指導能力を基盤とした主体的な態度を育成する。
- 2) 安心・安全な学校生活を実現するために、いじめの未然防止に向け、人権尊重の態度と適切なコミュニケーション力を育てるとともに、他者の痛みのわかる生徒を育成する。
- 3) 豊かな人間性の育成に向け、生徒会活動等を通して、自己存在感を育み、多様性を認め合う態度を養う。
- 4) 心身の健康で快適な学校生活のため、生命を大切にする意識を育て、心的課題のある生徒への支援体制を充実させる。
- 5) 生徒の美化意識を高揚させるために、清掃を徹底し、学習環境を整備する。

進路指導部

- 1) 将来の善良な市民、良き職業人として自立する意識を育て、基礎的・汎用的能力を向上させ、生徒が主体的に進路選択できるように支援する。
- 2) 3年間を見通した進路シラバスに基づく系統的な進路指導ができるように、各種の進路データを整理・分析・可視化し、他分掌・年次・教科と連携を密にし、生徒一人一人が高い理想を持って進路実現ができる組織的な進路指導を充実させる。
- 3) 生徒、保護者へ情報の提供や地域への広報活動を行い、進路情報の発信に努める。

開かれた学校像 (情報発信と連携)

- (1) 教育活動の一層の情報発信を心がけ、説明責任を果たす。
※ホームページ、連絡メール等の有効活用
- (2) 効果的な学校評価の実施と評価の有効活用を行う。
※情報提供の充実、評価結果 (含む分析) の公開
- (3) 地域や小・中学校、他校、大学、関係機関との連携を図る
ア 釧路市…施設活用、選挙出前講座、避難訓練等
イ 中学校…授業公開、学校説明会等
ウ 事業所等…就業体験、事業所訪問、校内進路説明会、交通安全教室等
エ 関係機関…避難訓練、薬物乱用防止講話、防犯教室等
オ PTA…学校祭、研修会、PTAだより『大雪原』等
カ 大学等…進路講演会、校内進路説明会等
- (4) 地域活動へ積極的に参加する。
※ボランティア活動や各種協会や連盟活動への参加 (各自の専門性を生かす)

土 台

チームで取り組むプロとしての教職員像

- (1) 使命感、服務規律保持、適正な会計認識をもつ。
- (2) 江南力の育成を目指し、共通理解に基づき実践する。
- (3) 自己の課題を自覚し、自己点検、自己評価する。
- (4) 学校経営参画意識をもつ。
- (5) 生徒にとって身近な社会人として、謙虚な姿勢で学び続けるプロ意識を持つ。
- (6) 教科そのものの持つ面白さを、分かりやすく簡潔に教えることができる専門性を高める。
- (7) 個々の考え方を尊重しつつ、組織的に活動できる集団となる。
(教員) みんなで (生徒) みんなを指導する。
- (8) 潜在リスクを洗い出し、危機管理を徹底する意識を持つ。
- (9) 地域の一員としての意識をもつ。
- (10) 互いに切磋琢磨する職場風土を醸成する。